北海道・層雲峡観光活性化特集

インタビュー　開園10周年を迎えて

MTBで付加価値向上

上川町長　西木　光英氏

――旭川から帯広までの八つのガーデンをつなげた「北海道ガーデン街道」がありますが、「大雪森のガーデン」の魅力は何でしょう。

「やはり場所でしょうね。大雪山連峰を望む丘陵に広がる森に造られており、雄大な山と花の見事なコントラストは他にはありません。標高が650㍍と高いため、花の咲く時期が麓のガーデンとずれていることもある意味違った魅力として生かされているのではないでしょうか」

「周辺には層雲峡温泉やアクティビティ施設のほか、フレンチの巨匠・三國清三さんがプロデュースしたガーデンレストランとヴィラも併設されており、観光のメニューはとても豊富です。ガーデンを軸にさまざまな楽しみ方を提供します」

――場所柄、営業期間は半年ほどと短く、入園者数も限られているのでは。

「そこはネックですが、仕方がありません。開園当初は10万人の目標を掲げましたが、新型コロナ禍前で3万7千人ほどでした。その後、コロナ禍で減少を余儀なくされましたが、徐々に増えつつあります。当面は5万人を目標に掲げ、ガーデンの魅力に磨きをかけ、情報発信を行っていきます」

「また、台湾など外国からガーデンを訪れる観光客も少なくありません。ガーデンファンは国内外を問わずいますので、一定の需要はあると思います。やり方次第ですね」

――昨年9月、森のガーデン近くにマウンテンバイク（MTB）コースを設けました。これはガーデンの将来を踏まえたものですか。

「森林空間を活用した観光業の創出が目的で、もちろん森のガーデンを盛り上げる狙いもあります。山梨県の『YAMANASHI MTB 山守人』と連携協定を結びました。MTBで森林に気軽に入ってもらうことで、森林を身近に感じ、森の大切さを理解していただければうれしいですね」

「まず展望台コースと元気の森コースの二つを整備しました。これまで行政主導で行ってきましたが、今年度は民間に委託する方針で、選定作業を進めています」

――前町長は「北の山岳リゾート」を掲げました。

「基本的にはその構想を継続します。インバウンドも視野に入れたアドベンチャートラベル（AT）を推進します。ガーデンはその主軸となるもので、観光協会や商工会をはじめ、皆さんと話し合って、方向を定めたいと思います」

SNSなどで情報発信

層雲峡観光協会会長　西野目信雄氏

――「大雪森のガーデン」は、西野目会長が社長を務めるDMO大雪山ツアーズが管理運営しています。魅力をどう捉えていますか

「道内には八つのガーデン街道がありますが、ここは丘陵に広がるガーデンで、最も標高が高い。園芸種が育つギリギリの場所であり、高山帯の植物も見ることができます。かつ、大雪山連峰を望み、風光明媚な景色は他にはありません」

「また、地元の酒蔵・上川大雪酒造が手掛けるカフェ『緑丘茶房』や、フレンチシェフの三國清三さんがプロデュースするレストランなどもあり、見て、味わえます」

「半面、花が咲くのが遅かったり、季節が早く終わってしまうというデメリットもある（笑い）。広大な土地に約900品種の草花が植えられており、箱庭的な見せ方はできませんが、ガーデンファンの評価は高いと認識しています。スタッフの努力のたまものです。仕事がしやすいようバックアップしていくのもわれわれの努めです」

――年間来場者数はどのくらいですか。

「3万人ほどです。コロナ禍も収束し、徐々に増えていますが、まだまだ少ないです。5万人はいかないとペイしません。あと2万人をどう上乗せするか、大きな課題です。ただ、外国人も増えており、悲観はしていません」

「魅力を知ってもらうという意味ではSNSなどを利用した情報発信にもっと力を入れる必要がある。また、一番層が厚いシニアをどう引き付けるかですね。ガーデンツーリズムの潜在需要はけっこうありますから、『森のガーデンに行けばこんな楽しみがある』といった話題を提供する必要がある。簡単ではありませんが、地道に発信していくしかない」

――ガーデンプラスアルファについては。

「レストランやカフェはあるのですが、相対的に食事をする場所が少ないのがネックです。ガーデンとグルメ、アクティビティを含めた、楽しみ方のメニューを作り、どう提供するか。5年、10年先を見据え、幅広い方々から意見、考えを聞き、方向性を定めたい」

「参考のためにいろいろなところを見て回っています。足利フラワーパークにも足を運びました。夜間のイルミネーションに感動し、ガーデンに取り入れてはどうかとも考えました。費用対効果などを考慮するとなかなか難しいのですが、試行錯誤し、チャレンジしていきたいと思っています」

大雪 森のガーデン
Daisetsu Mori-no Garden

今年開園10周年　新たなステージへ

北海道の雄大な自然あふれる大雪から旭川、富良野、帯広、十勝までの全長250キロに、八つの庭園が並ぶ「北海道ガーデン街道」。その一つ、「大雪森のガーデン」（上川町）は今年、開園10周年の節目を迎えた。新型コロナ禍で来園者は減少したが、回復の兆しが見え始め、ツアーバスも徐々に増えつつある。

大雪森のガーデンは、大雪山連峰を望む丘陵に広がる森に造られたガーデンで、北海道らしい雄大な景色が眼前に迫る。

900品種を超える、色彩豊かな宿根草が咲き誇る「森の花園」、自然の木々や可憐な山野草に囲まれて寛ぐ「森の迎賓館」、緑あふれる「遊びの森」の三つのエリアがある。

森の花園は「大雪な庭」「四季のすみか」「花の泉」「親しみの庭」「カムイミンタラ」とそれぞれ独自の魅力を持つガーデンで構成され、シーズンごとに全く異なる風景を楽しめる。

森の迎賓館は、「森のゲートウェイ」「森の絨毯」「森のリビング」「癒しの谷」「森の博物園」という個性豊かな五つのゾーンで成っている。

「遊びの森」にある、木と木に梁（はり）を渡して作った「鳥の目になるテラス」は地上4㍍の高さから森の中の風景を見渡すことができる。また、木の鍵盤が斜面に約40㍍にわたって並ぶ「森の木琴」では、木の球を転がすとバッハのプレリュードを優しく奏でてくれる。このほか、直径8㍍と4・5㍍の巨大なリング型の揺れるベンチや交流体験棟「チュプ」がある。

園内にはカフェ「緑丘茶房」やショップ、フレンチの重鎮、三國清三さんがプロデュースした「フラテッロ・ディ・ミクニ」などもある。

営業期間は4月27日～10月14日。営業時間は午前9時～午後5時。JR上川駅前からガーデンまで往復無料シャトルバスが運行されている。問い合わせは☎01658（2）4655。

入り口もリニューアル

森の迎賓館に新たに設置されたオブジェ

入園者を迎えるウエルカムゲート

→

2014年当時の「森の花園・親しみの庭」（左）と現在の「森の花園・親しみの庭」

◀魅力あるガーデン造りに邁進―現場から

個人客の来園者拡大に取り組む

営業統括　為国　義徳さん

大雪森のガーデンは、多くの方々に支えられて開園10周年を迎えることができました。皆さまに心より感謝申し上げます。

コロナ禍で来園者数が減少しましたが、2022年から少しずつ回復してきました。特に、昨年度は多くのインバウンドツアーのお客さまにご来園いただき、層雲峡温泉の宿泊施設営業担当者と連携した営業プロモーションの効果もあり、韓国や台湾を中心にガーデンの認知度も上がってきております。国内ツアーのお客さまも同様で、国内各旅行会社のご協力によりコロナ前を上回る数のお客さまをご送客いただきました。

公共交通機関を利用して来園することが大変な当施設にとって、貸切バスツアーは重要な顧客層ですので、今後も層雲峡温泉と連携したプロモーション営業を継続してまいります。また、今年は個人のお客さまの来園拡大に向けて、10周年を記念したオブジェやウエルカムゲートを設置し、写真スポットの充実や定期的なおもてなしイベントを開催するなど、新たな取り組みを進めております。

ガーデンのある旭ヶ丘地区は、大雪山系の山々を間近に望むロケーションに、「フラテッロ・ディ・ミクニ」のレストランとヴィラ、そして「大雪森のガーデン」があり、国内外のお客さまを問わず、静かにゆったりと流れるちょっと贅沢な時間を過ごすことのできるエリアだと思っております。

今後も地域の誘客に貢献できる、魅力ある施設・エリアとなるよう努力してまいります。ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

より感動できるガーデンに

ヘッドガーデナー　工藤真希江さん

「大雪森のガーデン」は2024年で10周年を迎えます。私は15年から、この「大雪森のガーデン」でガーデナーとして従事しております。

「大雪森のガーデン」の始まりは13年、「森の花園」のみのプレオープンでした。植物も植えたばかりの小さな苗で、まだまだガーデンとは呼べないほどの寂しい庭でした。翌年の14年には「森の迎賓館」も造られ、いよいよグランドオープンとなり、15年には町をあげた一大イベント「北海道ガーデンショー」を行いました。

エリアを拡大し、さまざまな作家さんによる9作品を展示。毎週イベントも行い、庭の管理に加え作品の管理、イベント対応などさまざまな経験をさせていただき、たくさんのお客さまにお越しいただきました。「ドレスガーデン」や「森の木琴」もこの時の作品となります。「森の木琴」は現在も残っており、木琴の音色を楽しむことができます。18年には「北海道ガーデンショー」で使用したエリアを「遊びの森」として新しくオープン。大人も子供も楽しめる仕掛けがたくさんの遊べる森として、ご家族やお子さま連れのお客さまに人気のエリアです。

そして24年を迎えガーデンとして成熟し、植物と森も馴染み、大雪山を借景として「大雪森のガーデン」の名にふさわしい唯一無二のガーデンになったと自負しております。しかし庭造りに完成はありません。これからも植物の植え替えや新たな見どころづくり、園内の整備等、おもてなしの庭としてより感動できるガーデンとなるようスタッフ一同尽力していきたいと思っております。

今後の「大雪森のガーデン」もお楽しみに、ぜひお越し下さい。